

## 〔国際会議開催〕

|        |  |         |
|--------|--|---------|
| 申請者    | 京都大学大学院 情報学研究科 教授 西田 豊明  | 2165012 |
| 国際会議名称 | 18th ACM International Conference on Multimodal Interaction (ICMI) |         |
| 開催期間   | 2016年11月12日～11月16日   |         |
| 開催場所   | 日本科学未来館 (東京都江東区)<br>タイム 24 ビル (東京都江東区)                             |         |
| 申請者の役割 | General Chair  |         |

## 概要：

ACM International Conference on Multimodal Interaction (ICMI) は、人と人のインタラクションにおける多様なモダリティに着目したデータ分析、人と機械のインタラクションのモデル化、それに基づくシステムの開発に関する学際的な研究を対象とし、ACM SIG-CHI 傘下で学術的に極めて質の高い発表と議論が行われる国際会議である。ICMI2016 は、2016年11月12日から16日まで東京お台場のタイム 21 ビルと日本科学未来館で開催した。参加者数は過去最高に並ぶ 242 名であった。この内 87 名が日本からの参加であり、次いで米国から 40 名、ドイツから 20 名、中国から 20 名、23 カ国からの参加があった。11月13～15日の本会議は、24 件の口頭発表 (採択率 17%)、31 件のポスター発表 (21%)、21 件のデモ発表、3 件の基調講演、1 件の特別講演から構成した。11月12日には、本会議に先立ち、チュートリアル、共通のタスクやデータセットでアルゴリズムの性能を競うグランドチャレンジ、メンター 6 名による助言にもとづく博士課程学生 14 名の研究発表を中心とする博士課程学生コンソーシアム、隣接する日本科学未来館の展示、および、Cyber Living Lab (館暲教授、南澤孝太准教授主宰) の見学を行った。チュートリアルは、ICMI 国際会議シリーズでは、今回初めて開催した。11月16日は、7 件のワークショップを開催し、約 100 名が参加した。会議期間中に実施したアンケート調査の結果、基調講演やチュートリアルが非常に有用であったこと、ソーシャルプログラムの品質が高かったこと、全体としてよくマネージされていたことなど高く評価されたことがわかった。今後は、産業界との連携も深め、ヒューマンコンピュータインタラクションや人工知能を利用した研究開発にコミュニティとして貢献したい。